

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892000239		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームあかし魚住東		
所在地	明石市魚住町錦が丘3丁目4番地13		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町村受理日	平成30年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティー・サポートセンター神戸		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成29年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR魚住駅より徒歩圏内の閑静な住宅地にあり、自治会に加入しているため、回覧板が回ってきたり地域の取り組み(お祭り、勉強会、ウォーキングラリー等)に地域住民の一員として参加させて頂いています。敬老会にも参加されています。季節ごとに楽しんでいただけるイベントを開催し四季を感じて頂いています。ホームでの夏祭りは家族様の参加もありゲームや食事を皆さんと一緒にこなえてとても好評です。毎月、ホーム便りを作成して日常の様子や連絡事項などを見やすく案内・報告しています。家族様へも毎月担当職員から直筆手紙と写真を送らせていただき、好評です。入居者様の希望に(外出したい場所・食べたいもの等)出来るだけ応じられるように努力しています。家族様の来訪や友人の来訪も多く、信頼関係をより深められるように努力しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅地に立地しており、自治会員として地域の一斉清掃や廃品回収等の活動に参加、協力している。事業所理念は昨年度の目標達成計画で掲げた「一人一人に寄り添う介護」と定め、具体的な実践に取り組んでいる。事業開始から5年が経過し入居者の加齢により介護の内容も変化してきており、その都度家族と連絡を取って介護計画を見直している。入居者は四季折々の行事、庭に造った菜園や花壇で野菜や花づくりを楽しんでいる。外出機会を大切に、地域のボランティア演奏会、ふれあい喫茶等に出かける。2か月毎の運営推進会議には7、8人の家族の出席がある。8月の夏祭りには約20人の参加があり、ゲームの進行を手伝ってもらった。家族の支援を得て、少人数で入居者にふさわしい場所への外出を来春の実施を目標に企画している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

まんてん堂グループホームあかし魚住東

評価機関:CS神戸

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まんてん堂グループホームあかし魚住東では、「一人一人に寄り添う介護」を事業所理念とし、具体的には毎朝の申し送り・月2回のカンファレンスにて個々のケアを話し合い実践に繋げている。	昨年度の目標達成計画の「目標」及び「目標達成に向けた具体的な取り組み内容」を踏まえて職員全員で話し合っ「一人一人に寄り添う介護」を事業所理念として定めた。毎朝の申し送り、月2回のカンファレンスで確認し、全員が共有して実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会への参加を行い、地域の回覧板が届き、情報を頂いている。他、運営推進会議で毎回自治会長に参加いただき、報告を頂いている。地域での取り組み(資源回収や定期清掃)や行事に積極的に参加している。	自治会員であり回覧板も回ってくる。地域の一斉清掃や廃品回収等の自治会活動に参加、協力する。敬老会には入居者も招待される。魚住東地区ゾーン会議のメンバーとして明石市、地域包括支援センター職員や地域の医師、薬剤師等との交流機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	魚住東地区ゾーン会員になっており、定期的な会議で意見交換したり、地域行事に参加して皆様に知っていただく取り組みを行っている。春・秋にウォーキング大会にも参加し地域の方々と交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での貴重なご意見をいただき、議事録を玄関に閲覧できるようにしている。会議内では、利用者状況の報告や活動内容、事故の報告などをさせて頂き、意見を聴取している。家族様同士の交流の場となっている。	二か月毎に錦が丘コミュニティセンターで開催している。多人数の入居者家族と自治会長の出席が得られているが、土曜日開催のため、地域包括支援センター職員や知見者の出席が得にくい状況である。家族からの意見や地域の情報は運営に生かしている。	多くの家族が参加している状態を継続するとともに、地域包括支援センター職員や地域密着型サービスの知見者の参加が得られるよう工夫されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の『ふれあい介護員』の方が2名こられており、ご入居者様とお話をしてくれたり、している。明石市に運営推進会議出席の依頼をしたが明石市の職員の出席は不可との返事があり出席されない。	毎月明石市から派遣されるふれあい介護相談員を2人受け入れている。利用者、家族と事業者との架け橋役を担っており、毎回コメント及びアドバイスをもらい運営に生かしている。事故報告は適正に行っており、指示等がある場合は速やかに対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	事業所内研修で身体拘束の研修を実施している。玄関の施錠に関しては防犯上の観点で行っているが、出たいときに職員が開けて出られるようにしている。	「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」についてよく勉強する。研修は虐待防止と合せて行い、研修部会で作成する資料を用いる。また、不適切事例に関する職員アンケートを行い、グレーゾーンの事例についてグループ討議を行う。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時研修で研修を実施している他、全職員が年1回以上外部研修の参加または内部研修を受講している。また、虐待防止委員会を設置してアンケートを実施したりと、考える機会を設けている。	高齢者虐待防止法を繰り返し勉強している。研修は身体拘束と合わせて年2回行い、職員には研修報告の提出を義務付けている。研修部会作成の資料による研修、職員アンケートによる不適切事例のグループ討議、外部研修を受けた職員による伝達研修の内容である。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度事業所内で研修を実施した。現在は権利擁護利用のご入居者様はおりませんが、今後も継続をしていく。	日常生活自立支援事業、成年後見制度利用の入居者はいないが、制度は研修部会で作成した資料や、成年後見支援センターのパンフレットなどを用いて研修している。成年後見支援センターや社会福祉協議会のパンフレットは備え置いている。	
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけ、家族様への説明、ご質問などをしっかりお聞きし、契約を実施している。	契約時には、面談室で管理者が利用者と家族に重要事項説明書と入居契約書等の内容を丁寧に説明する。職員は医療行為が出来ない旨を説明し、緊急時の対応についての家族の意向を確認する。質問には誠実に回答することを心掛けている。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族様からのご意見を頂いている。また、ホーム入口に意見箱とご意見カードを設置して、言いたいことも寄せてもらえるようにしている。面会に来られた際にはできる限りご意見をお伺いしている	7～11月の運営推進会議には7、8人、8月の事業所の夏祭りには約20人の家族参加があり、意見等を聞く機会が多い。馴染みの理美容院による事業所内でのカット、整髪は家族の意見による。事業所訪問機会の少ない家族には電話で意向を確認している。	
11	(10)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回、集まって意見を求めたり、業務内容についての話し合いをする場を設けている。また、提案シートをいつでも記入して管理者へ提出できるようにしている。それらについて反映した結果を掲示物やミーティングの場で公表している。	毎日の申し送り、月2回のカンファレンスとケアカンファレンスで職員の意見をよく聞いている。議事録は何時でも読めるよう出勤簿と共に置いている。2年前からフロアリーダーを置き職員間のコミュニケーションがスムーズになった。個人面談は課題である。	事業所の運営や重要な方針決定に関して、現場で働く職員の意見を十分聞いてこれを生かしていくことが大切です。入居者や事業所のために何ができるかを前向きに話しあって、よい結果を導き出すことを期待します。
12			○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各事業所の状況報告等を管理者から代表者へ伝わるような仕組みの『執行役員制度』を昨年より実施している。本部役員との月イチ面談にて報告している。		
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の本部指導のステップアップ研修や、ケアマネ、介護福祉士等を受験する、資格習得サポート研修を実施している。また、職員受けてみたい研修等を勤務調整している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所と勉強会など、明石市グループホーム連絡会などで意見交換を行っている。施設訪問には至っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談後も入居前に何度か本人様や家族様のお話を聞く機会をできるだけ作っている。入居後慣れるまでは出来る限り多く関わることにより、不安なく、お心を聞いて頂けるよう努めている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で自宅等でお話をお聞きし、入居時にも不安なことや要望・心身の状態・人となりなどを詳しく聞いて、その情報を職員と共有している。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の暮らしに必要な支援を見極める為話し合い当面の介護計画書を作成し、改善点があればすみやかに対応している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	まんてん堂の理念にあるように「自分の親が」「自分自身が」と置き換えて、利用者様主体となられるような関わりを伝えている。また、利用者様の心に寄り添うようにと教育している。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時と毎月の担当職員からの手紙でご本人様の様子を報告している。参加、協力していただけるような行事を企画し、職員に話しやすく、介護に参加しやすい環境作りに努めている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や、馴染みのお店に行かれ、今までのお付き合いを継続されている方もおられる。知人の来訪もあり、関係性を継続させて頂いている。	行きつけの美容院に子や孫と一緒に行く方、歌のサークルに行く方の支援をしている。事業所内での新しい友達づくりを大事にし、自然体で支援する。家族には入居者が行きたい所へ行って共に過ごせる時間を持つよう支援を要請することになっている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様同士で挨拶や会話をされている。また、ご自分から馴染めない方は職員が仲介に入ったりして日々交流がある。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話やハガキなどをやり取りさせていただいている方もいる。中には家族様が遊びに来て下さる方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の行動には意味があることを常に考え、支援させて頂いている。本人様の今の暮らしに何が足りないのかを職員同士話し合いを持っている。家族様からのお話も参考にさせて頂いている。	日々のケアの中で、言葉が出ない方や出て通じない方に対しては、仕草や態度で思いを把握したり、いろいろ試してみる等している。それでもわからない時はお茶やコーヒーを出し、寄り添ったり、そっと見守ったりしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報を作成している。入居前に利用されていた事業所にお聞きし生活環境を支援できるように勤めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝朝礼で申し送りを全体で実施して共有している他、申し送り日誌を利用して情報共有を行なっている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方について担当職員と計画作成担当者でモニタリングをし、カンファレンスにて意見を求めて介護計画の見直しに役立っている。変更時には利用者様、家族様の意向を確認している。	入居者の加齢により介護の内容も変化し、不定期にその都度、介護計画の見直しを行うようになってきている。経口飲料が処方されただけでも家族に連絡を取り、書面にして捺印も得ている。ケア目標の内、3つを抜粋し日々のモニタリングをしている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康状態や様子の変化、ケアについての情報交換も朝の申し送りをしっかり行ない、その後の職員へ引き継いでいる。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	音楽療法や喫茶のボランティアを繋げたり、必要性が認められる方には鍼灸マッサージ利用を勧めたりしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りへの参加、地域の活動にできるだけ参加している。ボランティアも毎月定期で来訪して頂いている。地域の在宅介護支援センターと連携して情報交換を行っている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医療機関以外のかかりつけ医に通われている方もおられる。いずれの医師とも往診時以外に24時間電話連絡できる体制を取っている。	入居者全員が月2回の協力医の往診を利用している。歯科の往診も毎週あり、ほとんどの入居者が利用している。皮膚科、眼科の受診は原則として家族同伴になるが、家族が行けない時は職員が同行している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携している訪問看護師が月に2回来られる。このほかにも日常的に電話で看護師と事前連絡を取り合い、気付きや変化に対応している。状態を相談し、アドバイス等頂けている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には情報提供書を持参し、口頭でもできる限りの情報を医療機関にお伝えしている。また、退院時には医療面だけでなく生活面での注意事項を中心にお聞きできるように退院時カンファレンスに家族様と共に参加している。	協力医療機関が大病院であり入居者の入退院はスムーズに受け入れられている。入院中は管理者が様子を見に行ったり往診のドクターに経過を聞いたりしている。退院時には看護サマリーを受け取り、受け入れ態勢を整えている。家族の意向も聞き取っている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族様・医師と話し合いを行い、方針を共有している。	契約時に重度化や終末期における指針を説明している。腰痛からみるみる状態が悪くなり、口を開けなくなった入居者が看取りに入ったが、「らくらくごっくん」という器具を試してみると経口飲食ができるようになり、1カ月余りで看取りから逃れることができた。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを見やすく掲示したり、往診医や看護師にすぐに連絡できるようにしている。また、朝礼やミーティングなどを用いて指示、確認したり、資料を作って職員間で共有することもある。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を実施している他、運営推進会議の中でも関係づくりに努め、協力を依頼している。	年2回消防訓練を行っている。6月に消防署立ち合いの下、夜間想定で避難訓練を行った。消防署からは、居室からベランダへの避難を指示され、タンス等の置き方の指導を受けた。近隣住民が2名参加し、避難した入居者の見守りを行った。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧に声かけを行うように心がけている。ただ、かしまり過ぎると利用者様も返事だけになってしまい、その人その人にあった声かけ対応を行うようにしている。	日々のケアの中で職員と入居者が少しぐしゃくしゃしている時は入居者のなじみの職員が「代わりましょうか」と声をかけ交代している。管理者がその場には相応しくないとと思われる言動を見聞きした時は、その場で職員を呼び注意している。	丁寧な言葉かけや対応を徹底するのは難しいかも知れませんが、「一人ひとりの尊重」のとらえ方や、どのような言葉かけや対応が適切なのかを話し合われてはいかがでしょうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活上の様々な場面において、そばで寄り添うように心掛けており、○○がしたいと言われた言葉や、要望を可能な限り取り組んでいる。また、質問の仕方に変化を付けて自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、買い物、外出等、伺いながら支援させて頂いている。希望を言われたい方に関してもその方の生活歴などを包括的にとらえた提案をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の希望に応じて行きつけの美容院や希望する美容室に同行している。訪問散髪を実施し出掛けにくい方にも利用して頂いている。日常の洋服選び・行事や外出時のお洒落の声掛けや見守り、選びやすいようにいくつか用意したりと工夫している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒に準備したり、関わりを持ちながら、行っている場面が多い。ご自分で下膳される方もおられ、1人ひとりが出来ることを支援している。好みや形態も可能な限り入居者様に合わせて対応している。季節を感じられる食卓を目指し取り組んでいる。	調理、盛り付け、お皿ふき、下膳等それぞれの入居者が出来る事を共に行っている。食事レクリエーションは入居者から聞き取った希望のメニューを順番に作って楽しんでいる。南瓜でパイを作ったり、お好み焼き屋やドーナツ店の外食を楽しんだりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前から少食の方や見た目が多いと食が進まない方へは食べやすさを配慮し、水分の少ない方には好みに配慮して提供し、量や提供タイミングを表にしている。体重測定をグラフ表にして変化を確認している。日々の体調変化に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを声かけさせて頂き、促している。ご自身から進んでされる方もいる。出来るところまではご自身で頂くよう支援している。ケアが難しい方にはスポンジブラシを使用し汚れを取っている。毎週1回訪問歯科を受けられている方も多い。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意があっても他者に上手く伝えられない方へは、表情や排泄表を参考に早目に察知し、行動パターンを読みとり案内している。尿意や便意が不明の方場合は排泄間隔を考慮し利用者様のさりげない様子の変化で案内を行っている。	1人がオムツ使用で、9人が布パンツ、残りは1日中か夜ののみりハビリパンツを使用している。便秘対策として、軽い下剤が処方されているが、水分補給、腹部温めやマッサージ、散歩等を行っている。排泄表や日誌で細かくチェックしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや果物を提供する機会を設けたり、水分摂取に気を配ったり、散歩や足を動かす運動や体操を日々の活動に盛り込んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	頻度や時間帯の希望をお聞きし、入浴のお声かけや準備をさせて頂いている。毎日ご希望の方も対応させて頂いている。介助に関わる職員も出来る限り同性介助を行っている。	週に3回以上個浴を楽しんでいる。介護度が高く入り浴槽に浸かれない入居者には脱衣場と浴室を暖房し、足浴をしながらシャワー浴を行っている。5月から寝たきり状態になっている入居者には清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、空腹での不眠を訴える方にも、軽食を提供する等の対応も柔軟に行っている。昼食後に短時間休息できる支援もしている。寝具も馴染みの物を使用されている方もおられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についてすぐに調べられるようファイルにしている。月2回以上薬剤師が来られるため、電話でも気軽に聞ける環境にしている。薬が変更になった際の様子観察のポイントを踏まえた申し送りを実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	当日の食事メニュー書きや、家事、運動、作業、散歩などの支援を日常的に行ない、喫茶やドライブ、ホーム内でその方にあった出来る手伝いを職員と一緒にしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散髪、買い物、散歩、外出を支援させていたでいる。家族様とのお出掛けを支援するよう、送迎をしたり、介護タクシーのご紹介もしている。外食は、ご希望の場所に出かけ楽しまれている。	敬老会、しめ縄作り、どんど焼き等の自治会の行事に参加したり、廃品回収の場所に段ボールを運ぶのを自分の仕事としている入居者もいる。外食に出かけたり、庭に野菜を植え、水やりや収穫を楽しんだりした。	今後の計画としている、一家族と職員という程度の規模の旅行を企画、実践される事を期待します。野菜の水やりなどの小さな外出も続けられ、写真などで家族に発信されてはいかがでしょうか。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお財布を所持し、買い物でのお支払いをされる方もいるが、ホームが立替えて支払いをして、入居料と一緒にご請求させていただいている方がほとんどである。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話にて家族様への連絡のお手伝いをしている。年賀状を書いて送られることの支援も行っている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を出すために、フロアに写真を掲示したり、季節ごとの飾りつけを行っている。また、居心地良かったために昼寝が出来る環境がある。	ベランダが建物の周囲にあり、居室からの避難がしやすくなっている。階段と玄関の清掃は外部委託しており週3回行っている。リビングは職員が毎日清掃をしている。トイレは汚れたらその都度清掃し、清潔を保っている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでのごくつろぎを好まれる方が多く、気の合うご入居者様同士で過ごされており、畳のこたつを好まれる方も職員と一緒に楽しく過ごせるように環境を作っている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みの家具や私物等を希望があれば、一緒に模様替えを行っている。	ベッドや家具等なじみの物を持ち込んでいます。布団を床に敷いて就寝する方もいる。週1回のリネン交換時に清掃をしている。起床後の寝具の整え等も職員が気を配り、気持ちよく過ごせるように支援している。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレはわかりやすく、『使用中』『空いています』の札をご入居者様がお書き下さり、付けている。		